

環境浄化微生物資材「えひめAI-2」の由来には、単なる技術開発を超えた、地球環境への深い願いが込められています。その成り立ちを強調して解説します。

1. 開発のきっかけ: 愛媛の海を救うために

えひめAI-2は、1999年に愛媛県職員であった曾我部義明氏によって研究・開発されました 1, 2。当時、愛媛県の宇和海ではアコヤ貝の大量死が続いており、その主因が生活排水による水質汚濁であると考えられていました 1, 3。曾我部氏は、汚染の発生源である「家庭」の段階で対策を講じることが最も重要であると考え、自室を研究室にし、私費を投じて、誰でも手軽に作れる浄化液の開発に没頭しました 1, 3。

2. 名前に込められた「愛」: 坪田愛華さんの遺志

「えひめAI」の「AI(あい)」という名前は、環境問題をテーマにした絵本『地球の秘密』を残し、12歳で亡くなった坪田愛華(あいか)さんの名前に由来しています 2, 3。

- 絵本『地球の秘密』: 愛華さんが亡くなる直前に書き上げたこの本には、「私一人ぐらいという考えはやめよう」「みんなで協力しあって、美しい地球ができればいい」という、未来への強いメッセージが綴られていました 3。
- 研究者の決意: 曾我部氏は愛華さんの遺志に深く感銘を受け、研究者として彼女の想いに応えたいという情熱を原動力に開発を進めました 2, 3。この浄化液には、地球規模で環境を考えた少女の想いが凝縮されているのです。

3. 「特許を取らない」という選択

曾我部氏は、えひめAI-1(産業用)を家庭向けに改良した「えひめAI-2」の製法を、あえて特許を取らずに公開しました 1-3。これは、「一人でも多くの人がこの存在を知り、自分たちの手で使って使うことで地球環境を改善してほしい」という、愛華さんの願いを具現化するための選択でした 3。この「オープンソース」の精神により、今では全国、そして芦徳の地へと活動が広がっています。

4. 芦徳・奄美での「青い循環」への継承

この「誰にでもできることから始める」という由来の精神は、現在芦徳で進められている**「青い循環(The Blue Circulation)」**に色濃く受け継がれています 4, 5。

- 土地の恵みを還す: 曾我部氏が食品から資材を生み出したように、芦徳では地元のサトウキビの搾り汁(シュル)や廃糖蜜を使い、地域の土着菌を活用した「奄美カスタム」を自作しています 4-6。
- 自然への感謝: 住民が大切にしている「山ぬ おかげ、川ぬ おかげ、海や 珊瑚ぬ おかげ」という言葉は、愛華さんが絵本で描いた自然界の循環そのものです 5, 7。

えひめAI-2は単なる洗浄剤ではなく、**「一人の少女の願い」と「一人の研究者の情熱」**から生まれた、地球を救うためのバトンです。芦徳で毎日コップ一杯を流す習慣は、まさにこの尊い由来を未来へ繋ぐ活動と言えます 5, 8。